

警察の前を通つた。

「此處が君の家ぢやないか」と巡査が言ふ。

「誰が此んな所へ這入るものか」僕はさつさと一人歸つた。

僕の姉はまだ大阪へ歸らないでゐる。

父も義母もねてゐた。

臺所の大きい火鉢の前に坐つて、僕は太股をあぶつたり、さすつたりしなければならなかつた。

刀尋段々壞。

紫色に蚯蚓腫れに、三寸ばかりの裂傷になつてゐる。

ジクジク痛む。

鎮靜剤か何かの注射でもしたんではないか。

甚い事をしやがつた。

僕は鍋の煎り豚の残りでめしをかき込んだ。

昂奮の發作が又々起つた。